

事業計画書

平成 24 年（2012 年）度

公益社団法人日本コントラクトブリッジ連盟

目 次

はじめに.....	1
I. 事業計画の概要.....	1
1. 環境認識.....	1
2. 中長期事業計画立案体制の変更について.....	2
3. 基本方針.....	2
4. 事業別基本方針.....	2
II. 競技会事業（公益目的事業 1）.....	4
【平成 24 年度の計画概要】.....	4
1. 競技会の主催（公益目的事業 1.1）.....	5
2. 競技会運営環境の整備（公益目的事業 1.2）.....	6
3. ディレクターの養成（公益目的事業 1.3）.....	7
4. 競技会事業管理（公益目的事業 1.9）.....	7
III. 普及事業（公益目的事業 2）.....	8
【平成 24 年度の計画概要】.....	8
1. 体験イベントの開催（公益目的事業 2.1）.....	9
2. 講習会等の開催（公益目的事業 2.2）.....	11
3. 体験教室・講習会等の実施支援（公益目的事業 2.3）.....	12
4. 広報（公益目的事業 2.4）.....	14
5. 普及事業管理費（公益目的事業 2.9）.....	15
IV. 国際交流事業（公益目的事業 3）.....	16
【平成 24 年度の計画概要】.....	16
1. 国際競技会の主催（公益目的事業 3.1）.....	17
2. 国際競技会への代表派遣（公益目的事業 3.2）.....	17
3. 国際的競技団体との交流（公益目的事業 3.3）.....	19
4. 国際交流事業管理（公益目的事業 3.9）.....	19
V. 収益事業等.....	20
【平成 24 年度の計画概要】.....	20
1. 公認（収益事業等 1）.....	20
2. 商品販売（収益事業等 2）.....	21
VI. 管理部門.....	22
【平成 24 年度の計画概要】.....	22
1. 会員・会友.....	22
2. 組織運営.....	22
VII. 参考：九州支部及び福岡ブリッジプラザの活動.....	24
【九州支部事業まとめ】.....	24
【福岡ブリッジプラザ事業まとめ】.....	26

はじめに

平成 20 年 12 月 1 日に施行された公益法人制度改革関連 3 法に基づき、当連盟では、公益社団法人認定を目指して準備を進め、平成 24 年 3 月 21 日に内閣総理大臣から移行認定書を受領、同 4 月 1 日付けで「公益社団法人日本コントラクトブリッジ連盟」として新たなスタートを切ることとなった。

公益社団法人への移行に伴い、当連盟では個別事業について詳細な分析を行い、事業区分を従来の事業部（担当組織）単位から、事業の目的別に分類した事業部門単位、すなわち、公益目的事業部門（当連盟の区分では、競技会事業・普及事業・国際交流事業の 3 事業）、収益事業等部門（同、公認事業・販売事業の 2 事業）、及び管理部門に再編する。競技会事業部、普及事業部、国際交流事業部の活動内容は従来どおりであるが、事業区分の再編に伴い、一部の事業部では複数の事業（区分）にまたがって業務を担当することとなる。また、新定款に基づき、組織運営・業務執行体制を再構築する（詳細は付属資料を参照）。この組織再編に基づき、当連盟は、次のとおり平成 24 年度事業を遂行する。

I. 事業計画の概要

1. 環境認識

(1) 外部環境

平成 23 年度の日本経済は東日本大震災により深刻な打撃を受けたが、その後、官民の総力を結集した復興努力によって、震災直後の急激な落ち込みから穏やかな回復軌道に転じた。しかし、新興国の景気拡大スピードの鈍化などにより世界経済が減速傾向にある中、欧米の債務危機が顕在化し、また高い成長を続けてきた中国も依然としてインフレ・不動産バブル懸念といった不安材料を抱えており、世界経済の先行き不透明感が増している。他方、日本の高齢化傾向は継続しており、内閣府の「平成 23 年度版高齢社会白書」によると、2010 年（平成 22 年）10 月時点での 65 歳以上の高齢者が総人口に占める割合は 23.1%（前年 22.7%）、2055 年には 40.5%に拡大すると予想される。

厳しい経済環境や高齢化傾向は今後も持続すると予想され、人々の余暇活動や当連盟の運営にも影響するものと見られることから、本年度も引き続き事業運営の効率化を図りつつ、厳しい外部環境に対応していく必要がある。

(2) 内部環境

先に述べたとおり、当連盟は平成 24 年 4 月 1 日より「公益社団法人日本コントラクトブリッジ連盟」として生まれ変わる。公益社団法人への移行を当連盟本来の理念と活動を再確認する機会と捉え、マインドスポーツとしてのコントラクトブリッジを通じて豊かな社会の実現に寄与する法人としての自覚と責任を持ち、公益性をより一層高めることに留意しながら事業活動を行っていく。

平成 24 年度は、役員の改選があり、新たに理事 13 名、監事 3 名が就任する予定である。また、高橋陽子普及事業部長、福崎洋子事務局員の退職に伴い、清水映樹普及事業部長、貴戸祥郎事務局員を 4 月 1 日付けで新規採用する。担当事項の引継を迅速に行い、新役員及び新規採用職員を含む新たな人員体制で、本年度も円滑な事業運営に努める。

2. 中長期事業計画立案体制の変更について

これまで、当連盟では、中長期計画については 5 ヶ年計画という枠組みで立案・実施してきた。しかし、中長期的視野に立って計画的に事業運営を行うという当初の目的が達成されたこと、及び 5 年という期間にとらわれず柔軟に対応していく方が、当連盟の事業、特にブリッジの普及・発展を担う普及事業の本質により合致するとの観点から、本年度より事業部ごとに中期計画を立案・実施していく体制に変更した。

3. 基本方針

以上の状況を踏まえ、本年度は次の 3 点を軸に事業活動を行う。

- 公益法人化に伴う組織改革の一環として導入した業務執行理事制度を軸とする新たな業務執行体制を軌道に乗せ、公益社団法人として、これまで以上に公益性に資する事業運営に努める。
- APBF コンgress福岡大会を開催し、コントラクトブリッジを通じた国際交流を図るとともに、この機会を活用して九州のみならず、全国的なブリッジの普及と認知度向上を目指す。
- 中長期事業計画立案体制の変更に伴い、第 2 次 5 ヶ年計画に盛り込まれていた方針と 4 年にわたる実施期間における成果及びその間に浮き彫りとなった新たな課題を検証し、事業部ごとに中期計画を再検討する年度と位置付ける。

4. 事業別基本方針

(1) 競技会事業（公益目的事業 1）

- NEC ブリッジフェスティバルを含め、主催競技会の運営においては、世界各国から高い評価を受けている大会運営ノウハウを生かして質の高い競技会の提供に努めるとともに、担当ディレクターや参加者からの意見やニーズを収集して問題点や課題の把握に努め、迅速に対応していく。
- 中長期的な課題として、よりよい競技機会を広く提供するためには、競技環境を改善し、充実させていくことが重要である。本年度は、この認識のもと、環境のさらなる改善のための具体的な方策を検討する。
- 競技会運営管理システムの整備・改善に努める。競技会運営ソフト（JTOS）の保守を継続し、新バージョンをリリースするとともに、ブリッジメイトシステムの貸与及び導入支援を継続する。
- ディレクター講習会を継続し、競技会運営のレベルアップを図る。ナショナルディレクター養成プログラムは奇数年に隔年で実施することになったため、本年度は実施しない。

(2) 普及事業（公益目的事業 2）

- 公益法人化に伴う業務執行理事制度の導入と部会制度の廃止及び事業部長交代を踏まえ、事業部の運営体制全般を見直し、新たな枠組みの普及事業実施体制を整備する。
- 前年度で終了した第 2 次 5 ヶ年計画の成果を踏まえて、計画の進捗や達成が明確となるよう定量的な目標を設定した新たな中期計画を検討する。

- 前年度から検討中である「現場ニーズを反映した普及基盤の拡大の実現」を目的とする「拡大普及ネット構想」は、上記の枠組みの中で引き続き展開する。
- APBF コングレス福岡大会という注目度の高い機会を最大限活用して効果的な普及広報活動を展開し、マインドスポーツとしてのコントラクトブリッジの認知度向上と併催普及イベントへの集客を図る。大会終了後は認知度調査を実施し、平成 22 年度に実施した前回調査の結果と比較し、今後の普及広報事業戦略に役立てる。
- NEC ブリッジフェスティバル体験イベントなどで培ったノウハウを生かし、マインドスポーツ体験教室及び初心者向け競技会を軸に、ブリッジをよく知らない人々に楽しんでいただける普及イベントを企画・実施する。
- 普及現場におけるニーズが高い入門レベル教材の改訂または新規作成に取り組む。
- 雑誌、新聞などの印刷媒体を使った広報・広告展開については、前年度と同様、対象を絞って継続的に展開する。
- 昨年導入した CMS（コンテンツ管理システム）を活用したウェブサイト広報の強化を図る。

(3) 国際交流事業（公益目的事業 3）

- APBF コングレス福岡大会を開催し、アジア太平洋地域内におけるブリッジの普及と発展、並びにブリッジを通じた国際交流に努める。本大会は、APBF 選手権としては初めて、参加資格が APBF 以外の WBF 加盟国・地域に開放されるとともに、多国籍チームでの参加が可能なオープン大会として開催されることとなった。オープン化に伴う留意点を含め国際競技会運営ノウハウの一層の集積に努め、共有化を図る。
- 中期的な目標としてアジア競技大会でのブリッジ種目採用を掲げ、APBF 加盟国・地域の NBO、特に地域内の有力国・地域である中国、チャイニーズ・タイペイ、韓国との連携を強化し、マインドスポーツとしてのブリッジの普及・発展に努める。

(4) 収益事業等

① 公認事業（収益事業 1）

- 公認事業関連業務の見直しを行い、システム化、効率化を図る。

② 商品販売事業（収益事業 2）

- APBF コングレス福岡大会関連グッズを開発、大会で活用する。
- 在庫管理や販売方法など関連業務の効率化を図る。

(5) 管理部門

- 事業区分及び業務執行体制の再編に伴う新体制のもと、公益社団法人に相応しい運営体制の確立と強化に努める。
- 事務局業務の改善に引き続き取り組み、新体制に沿った業務遂行及び管理体制の構築、業務の効率化を目指す。

II. 競技会事業（公益目的事業 1）

【平成 24 年度の計画概要】

(1) 計画概要

本事業は、当連盟自らが質の高い各種ブリッジ競技会を開催することはもとより、他の個人または団体が開催するものも含め競技会全般の質を維持し、よりよい競技機会を広く提供することを目的とする。この目的に照らして、(1) 競技会の主催、(2) 競技会運営環境の整備、(3) ディレクターの養成の 3 事業を行う。

事業区分の変更に伴い、前年度まで国際交流事業部の事業に分類されていた NEC ブリッジフェスティバルは、国内競技会として本事業に組み入れた。また、福岡ブリッジプラザが実施している競技会事業も本事業に組み入れた。

(2)収支総括	24 予算	23 予算	前年差	備考
経常収益	70,128,000	71,009,500	-881,500	NEC ブリッジフェスティバルと福岡ブリッジプラザを含む
経常費用	94,979,305	100,669,335	-5,690,030	
経常増減	-24,851,305	-29,659,835	4,808,530	

(3)事業別総括表

事業名	区分	24 予算	23 予算	前年差	備考
1.1 競技会の主催	経常収益	69,507,000	70,382,500	-875,500	
	経常費用	65,898,605	67,679,788	-1,781,183	
	経常増減	3,608,395	2,702,713	905,683	
1.2 競技会運営環境の整備	経常収益	0	0	0	
	経常費用	1,718,000	1,718,000	0	
	経常増減	-1,718,000	-1,718,000	0	
1.3 ディレクターの養成	経常収益	0	0	0	プログラム非開催年
	経常費用	842,000	1,063,000	-221,000	
	経常増減	-842,000	-1,063,000	221,000	
1.9 管理費	経常収益	621,000	627,000	-6,000	
	経常費用	26,520,700	30,208,547	-3,687,847	
	経常増減	-25,899,700	-29,581,547	3,681,847	

【事業別計画】

1. 競技会の主催（公益目的事業 1.1）

(1) 計画概要

本年度は以下の競技会を主催する。（主催競技会開催予定は付属資料を参照）。

① 主催競技会

- ・ ナショナル及びリジョナル競技会、日本リーグ、社会人リーグを開催する。
- ・ 地方からの参加者に対する交通費・宿泊費助成、前年度優勝者招待を継続する。

② NECブリッジフェスティバル

- ・ 海外から 8 チーム、国内から 3 チームを招待する。
- ・ Biglobe シリーズ上位 12 位及び地方在住の上位 4 位（同一県からは 1 名）までの方を飛鳥杯に招待する。

③ 九州地区（福岡ブリッジプラザ主催）

- ・ 西日本新聞社杯（リジョナル、3 月）、JCBL 主催のナショナル及びリジョナル競技会の九州予選（5 競技会）、セクショナル（月 2 回）、ローカル（月 4 回）、IMP リーグ、ウィークリーゲーム（月・火・水・金）を開催する。

例年 7 月に開催している山笠リジョナルの福岡市長杯とテレビ西日本杯は、2012APBF コングレス福岡大会のサイドゲームとして開催する（公益目的事業 3.1）。

本年度からの重要な変更点：

- ・ ナショナルレイティング競技会（チーム戦）の地方代表選抜試合のレイティングはすべてセクショナルとする。
- ・ 土曜日開催の連盟主催競技会への地方からの参加者を対象に、前日宿泊の場合の宿泊費補助制度を新設。
- ・ 連盟主催競技会の上位入賞者に対する賞品に選択肢を追加。

(2)収支総括	24 予算	23 予算	前年差	備考
経常収益	69,507,000	70,382,500	-875,500	
経常費用	65,898,605	67,679,788	-1,781,183	
経常増減	3,608,395	2,702,713	905,683	

(3)事業別総括表

事業名	方針	区分	24 予算	23 予算	前年差	備考
(1)主催競技会	縮小	経常収益	51,948,000	52,052,000	-104,000	
		経常費用	41,103,555	42,113,188	-1,009,633	
		経常増減	10,844,445	9,938,813	905,633	
(2)NECブリッジフェスティバル	縮小	経常収益	10,900,000	11,240,000	-340,000	本年度より競技会事業に区分
		経常費用	23,864,850	24,513,100	-648,250	
		経常増減	-12,964,850	-13,273,100	308,250	
(3)九州地区福岡 BP 主催競技会	前年度並み	経常収益	6,014,000	7,090,500	-1,076,500	本年度より競技会事業に区分
		経常費用	850,200	1,053,500	-203,300	
		経常増減	5,163,800	6,037,000	-873,200	
(3)九州地区 APBF サイドゲーム(平日開催分)	新規	経常収益	645,000	0	645,000	本年度単発事業
		経常費用	80,000	0	80,000	
		経常増減	565,000	0	565,000	

2. 競技会運営環境の整備（公益目的事業 1.2）

(1) 計画概要

本年度は以下の事業を実施する。

- ① 競技会運営管理システム
 - ・ 競技会集計ソフト（JTOS）の保守・管理を行う。
 - ・ スコア入力システム（ブリッジメイト）の使用法啓蒙活動、導入支援、貸与を行う。
- ② 競技会運営環境の整備と維持
 - ・ 競技会場の確保及び運営設備の維持向上に努める。
- ③ 競技委員会管轄事項
 - ・ 上告審理・裁定、公認コンベンションリストの見直し・改正・公表、ディレクター資格の審議・認定、マスターポイント規則の制定・改正を行う。
- ④ ルール委員会管轄事項
 - ・ 「デュプリケートコントラクトブリッジの規則」及び競技会運営に関わる諸規則・規定の解釈・通知・公表、上告委員会裁定へのさらなる上告の審理・裁定を行う。

(2)収支総括	24 予算	23 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	1,718,000	1,718,000	0	
経常増減	-1,718,000	-1,718,000	0	

(3)事業別総括表

事業名	方針	区分	24 予算	23 予算	前年差	備考
(1)競技会運営システム	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	1,452,000	1,452,000	0	
		経常増減	-1,452,000	-1,452,000	0	
(3)競技委員会	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	246,000	246,000	0	
		経常増減	-246,000	-246,000	0	
(4)ルール委員会	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	20,000	20,000	0	
		経常増減	-20,000	-20,000	0	

3. ディレクターの養成（公益目的事業 1.3）

(1) 計画概要

本年度は以下の事業を実施する。

① ディレクター講習会

例年どおり、新人ディレクター育成のための初級ディレクター講習会を、東京で 1 回、地方で 1 回開催する。他に、クラブディレクターを対象とする講習会を 1 回、セクショナルディレクターを目指す方を対象とする講習会を 1 回開催する。

② ナショナルディレクター養成プログラム

平成 21 年度より 3 年連続で実施してきたが、プログラムへの新規参加希望ニーズは一服したとみられることから、24 年度以降は奇数年度に隔年で実施していくこととした。本年度はプログラム実施年ではないことから、実地研修のみ行う。

(2)収支総括	24 予算	23 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	842,000	1,063,000	-221,000	
経常増減	-842,000	-1,063,000	221,000	

(2)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	24 予算	23 予算	前年差	備考
(1)ディレクター講習会	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	192,000	192,000	0	
		経常増減	-192,000	-192,000	0	
(2)ナショナルディレクター養成プログラム	縮小	経常収益	0	0	0	プログラム非開催年
		経常費用	650,000	871,000	-221,000	
		経常増減	-650,000	-871,000	221,000	

4. 競技会事業管理（公益目的事業 1.9）

(2)収支総括	24 予算	23 予算	前年差	備考
経常収益	621,000	627,000	-6,000	事業実態に合わせて、福岡ブリッジプラザの競技会事業運営管理費用を法人会計から公益事業に移した。増加分はこの移動による。
経常費用	26,520,700	30,208,547	-3,687,847	
経常増減	-25,899,700	-29,581,547	3,681,847	

(3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	24 予算	23 予算	前年差	備考
管理費 競技会事業部	縮小	経常収益	0	0	0	費用縮小は、主に按分科目・比率の変更、租税公課など
		経常費用	22,780,600	25,576,064	-2,795,464	
		経常増減	-22,780,600	-25,576,064	2,795,464	
管理費 福岡ブリッジプラザ	縮小	経常収益	621,000	627,000	-6,000	
		経常費用	3,740,100	4,632,483	-892,383	
		経常増減	-3,119,100	-4,005,483	886,383	

III. 普及事業（公益目的事業 2）

【平成 24 年度の計画概要】

(1) 計画概要

本事業は、ブリッジのことをよく知らない人々の興味・関心を高め、また、あらゆる年齢層のブリッジに対する理解及び技量の向上を促すことにより、マインドスポーツとして文化・スポーツの両方の側面を有するブリッジの普及を図り、児童・青少年の健全な育成、国民の心身の健全な発達及び豊かな人間性の涵養に寄与することを目的とする。具体的には、(1)体験イベントの開催、(2)講習会等の開催、(3)他の団体等による体験イベント・講習会等の実施支援、(4)ブリッジ普及のための広報及びツールの作成・配布の 4 事業を行う。

本年度は、高橋陽子前普及事業部長の後任に清水映樹新部長を迎え、新体制の下、中長期的観点から公益社団法人にふさわしい普及広報戦略を検討するとともに、APBF 福岡大会を活用して効果的な普及広報活動を展開することに注力する。

本年度より、九州支部及び福岡ブリッジプラザの該当事業を組み入れて統合した。

新規事業

- 青山学院大学ブリッジ講座支援（公益事業 2.3）
- 入門レベル教材作成（公益事業 2.4）
- 認知度調査（公益事業 2.4；本年度単発）

(2)収支総括	24 予算	23 予算	前年差	備考
経常収益	4,494,200	7,214,200	-2,720,000	
経常費用	76,742,654	74,075,066	2,667,588	
経常増減	-72,248,454	-66,860,866	-5,387,588	

(3)事業別総括表

事業名	区分	24 予算	23 予算	前年差	備考
2.1 体験イベントの開催	経常収益	1,663,000	1,963,200	-300,200	受益対象者：小学生～高齢者までの不特定多数の一般市民
	経常費用	8,182,400	7,041,760	1,140,640	
	経常増減	-6,519,400	-5,078,560	-1,440,840	
2.2 講習会等の開催	経常収益	1,879,200	1,846,000	33,200	
	経常費用	4,245,721	4,941,243	-695,522	
	経常増減	-2,366,521	-3,095,243	728,722	
2.3 体験教室・講習会等の実施支援	経常収益	192,000	1,663,000	-1,471,000	
	経常費用	13,526,000	11,947,900	1,578,100	
	経常増減	-13,334,000	-10,284,900	-3,049,100	
2.4 広報	経常収益	715,000	1,115,000	-400,000	
	経常費用	18,157,200	14,774,100	3,383,100	
	経常増減	-17,442,200	-13,659,100	-3,783,100	
2.9 管理費	経常収益	45,000	627,000	-582,000	
	経常費用	32,631,333	35,370,063	-2,738,730	
	経常増減	-32,586,333	-34,743,063	2,156,730	

【事業別計画】

1. 体験イベントの開催（公益目的事業 2.1）

(1) 計画概要

公益社団法人移行に伴う事業区分の再編により、ブリッジをよく知らない人々を対象に、気軽に参加でき、ブリッジに対する興味・関心を高めてもらうための各種体験イベント関連事業を「体験イベントの開催」としてまとめ、以下のように分類した。本年度は以下の事業を実施する（年度開催計画の詳細は別紙参照）。

- ① 文化・教育関連イベント出展（旧ユース部会担当「青少年対象イベントへの参加」）
 - ・ 霞が関子ども見学デー、関西ジュニアペア碁大会、日本棋院中部総本部夏休みジュニアイベント（いずれも夏休み中）、ゲームマーケット（東京・大阪）への出展
- ② 一般向け体験イベント
 - ・ APBF コングレス福岡大会普及イベント
 - ・ NEC ブリッジフェスティバル体験イベント
 - ・ ブリッジを愉しむ会
 - ・ 初心者大会の開催
前年度まで本事業は会員・会友の獲得を事業の主目的としていたが、ブリッジ初心者が競技ブリッジの楽しさを体験する機会を広く提供していくことに目的を変更した。
- ③ ユース向け体験イベント
 - ・ ユースキャンプ
- ④ ジュニア向け体験イベント（ジュニアクラブイベント）
 - ・ 体験／入門／練習会
ミニブリッジ体験教室、ミニブリッジ短期コース、橋之介プレ道場、橋之介ミニ道場
 - ・ 大会
橋之介ミニ道場スペシャル大会、第 4 回ジュニア・ミニブリッジチーム選手権、第 3 回マクブリッジ杯、第 5 回横浜ミニベイブリッジフェスティバル杯（協賛事業）
- ⑤ 九州地区
 - ・ 九州支部主催体験イベント
ミニブリッジ体験教室、ミニブリッジサロン
 - ・ 福岡ブリッジプラザ
ミニブリッジ体験教室、サロン

(2)収支総括	24 予算	23 予算	前年差	備考
経常収益	1,663,000	1,963,200	-300,200	
経常費用	8,182,400	7,041,760	1,140,640	
経常増減	-6,519,400	-5,078,560	-1,440,840	

(3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	24 予算	23 予算	前年差	備考
(1)文化・教育関連イベント出展 国民文化祭	休止・中止	経常収益	0	100,000	-100,000	出展団体の一般募集がないため、見送り
		経常費用	0	971,000	-971,000	
		経常増減	0	-871,000	871,000	
(1)文化・教育関連イベント出展 まなびピア	休止・中止	経常収益	0	0	0	開催自体が未定のため、出展見送り
		経常費用	0	342,000	-342,000	
		経常増減	0	-342,000	342,000	

(1)文化・教育関連イベント出展その他	拡大	経常収益	0	0	0	費用増は前年度管理費計上分の移動による、実質前年度並み
		経常費用	584,100	121,000	463,100	
		経常増減	-584,100	-121,000	-463,100	
(2)一般向け体験イベント NEC BF 体験教室	前年度並み	経常収益	271,000	234,000	37,000	
		経常費用	1,147,700	993,200	154,500	
		経常増減	-876,700	-759,200	-117,500	
(2)一般向け体験イベント 初心者大会の開催	新規	経常収益	260,000	0	260,000	前年度までは「会員獲得活動」とし管理部門に計上、実質前年度並み
		経常費用	313,000	0	313,000	
		経常増減	-53,000	0	-53,000	
(2)一般向け体験イベント ブリッジを愉しむ会	前年度並み	経常収益	560,000	560,000	0	
		経常費用	730,000	730,000	0	
		経常増減	-170,000	-170,000	0	
(3)ユース向け体験イベント ユースキャンプ	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	440,000	406,000	34,000	
		経常増減	-440,000	-406,000	-34,000	
(4)ジュニア向け体験イベント JR くらぶ運営	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	1,217,000	1,234,000	-17,000	
		経常増減	-1,217,000	-1,234,000	17,000	
(4)ジュニア向け体験イベント JR くらぶ体験イベント	縮小	経常収益	71,000	509,200	-438,200	費用減はジュニアキャンプの中止
		経常費用	734,000	1,501,560	-767,560	
		経常増減	-663,000	-992,360	329,360	
(5)九州地区 福岡 BP 主催体験イベント	前年度並み	経常収益	300,000	300,000	0	本年度より普及事業に区分 前年度まで法人に計上
		経常費用	96,000	96,000	0	
		経常増減	204,000	204,000	0	
(5)九州地区 九州支部主催体験イベント	縮小	経常収益	96,000	260,000	-164,000	本年度より普及事業に区分 前年度まで法人に計上
		経常費用	376,400	647,000	-270,600	
		経常増減	-280,400	-387,000	106,600	
(5)九州地区 APBF 福岡大会 普及イベント	新規	経常収益	90,000	0	90,000	本年度単発事業
		経常費用	2,371,800	0	2,371,800	
		経常増減	-2,281,800	0	-2,281,800	
(5)九州地区 APBF 福岡大会 体験イベント	新規	経常収益	15,000	0	15,000	九州支部主催分 本年度単発事業
		経常費用	172,400	0	172,400	
		経常増減	-157,400	0	-157,400	

2. 講習会等の開催（公益目的事業 2.2）

(1) 計画概要

本年度は以下の事業を実施する。公益社団法人移行に伴う事業区分の変更により、ブリッジに親しみ、理解を深め、技量を向上させるための講習会等を開催する事業を以下のように一つにまとめた。

① ミニブリッジ指導法講習会

- 体験教室や入門講習会の講師を初めて務めるプレイヤーのための講習会を依頼ベースで開催。首都圏で 2 回、遠隔地に講師を派遣しての講習会 2 回開催を想定。

② ユース向け講習会

- 意欲あるユースプレイヤーの育成を目的とする「ユース育成プロジェクト」の一環として、強化プログラムによる技術向上支援を行う（「ユース育成プロジェクト」の国際大会派遣事業は公益目的事業 3.2）。

③ ジュニア向け講習会

- 前年度に新設したジュニアくらぶ集中講座を実施する。四谷ブリッジセンター及び横浜ブリッジセンターで各 2 回開催予定。

④ 九州地区（福岡ブリッジプラザ主催講習会）

- 入門講習会をブリッジプラザ及び依頼ベースで地域の公民館や企業等で開催する。
- 入門コースを終えた人に対しては、入門レベルアップ講習会または初級レベルアップ講習会を、さらにコンベンションや 2 オーバー 1 を学びたい人に対しては中級レベルアップ講習会をメニューとして提供していく。

(2)収支総括	24 予算	23 予算	前年差	備考
経常収益	1,879,200	1,846,000	33,200	
経常費用	4,245,721	4,941,243	-695,522	
経常増減	-2,366,521	-3,095,243	728,722	

(3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	24 予算	23 予算	前年差	備考
(1)ミニブリッジ指導法講習会	縮小	経常収益	0	0	0	費用減は前年度計上の「体験教室実施マニュアル映像」制作費 本事業は保留
		経常費用	149,000	749,000	-600,000	
		経常増減	-149,000	-749,000	600,000	
(2)ユース向け講習会 ユース育成 PJ	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	1,752,221	1,541,443	210,778	
		経常増減	-1,752,221	-1,541,443	-210,778	
(3)ジュニア向け講習会 集中講座	拡大	経常収益	36,000	46,000	-10,000	
		経常費用	296,500	232,000	64,500	
		経常増減	-260,500	-186,000	-74,500	
(4)九州地区 福岡 BP 主催講習会	前年度並み	経常収益	1,843,200	1,800,000	43,200	本年度より普及事業に区分 前年度まで法人に計上
		経常費用	2,048,000	2,418,800	-370,800	
		経常増減	-204,800	-618,800	414,000	

3. 体験教室・講習会等の実施支援（公益目的事業 2.3）

(1) 計画概要

助成・支援事業と教育部会の教育現場におけるブリッジ普及支援事業を以下のように一つにまとめた。（詳細は付属資料を参照）

本年度は以下の事業を実施する。公益社団法人移行に伴う事業区分の変更により、普及部会の助成・支援事業と教育部会の教育現場におけるブリッジ普及支援事業を以下のように一つにまとめた。（詳細は付属資料を参照）

① 一般支援

- ・ 教室助成（体験教室・入門講習会、カルチャースクール講座）、クルーズ教室、海外クラブ支援
- ・ 地方活性化支援活動：地方クラブ支援活動、初心者大会参加助成、地方クラブ普及担当者研修

※ 関西地区をターゲットとする「地方大都市圏活性化 PJ」は、中期計画立案体制の変更に伴い、計画全体を再検討

② 教育現場におけるブリッジ講座支援

- ・ 大学ブリッジ講座支援
東京大学、早稲田大学、福岡大学に加え、本年度青山学院大学でも開講

③ 学校・学生支援

- ・ 学生クラブ活動支援（部員勧誘活動・クラブ立ち上げ・教材・用具等の提供）
- ・ 学生リーグ主催の学生選手権への参加費用助成

④ 九州地区（九州支部による九州地区での支援活動）

- ・ インターナショナル・エアアカデミー（航空専門学校）のブリッジ講座支援
- ・ 地元社会におけるブリッジ普及活動支援：公共機関、学校、企業等でのブリッジ活動支援、近隣県での普及活動支援
- ・ カルチャー講座支援：西日本新聞 TNC 文化サークル・熊日生涯学習プラザ

(2)収支総括	24 予算	23 予算	前年差	備考
経常収益	192,000	1,663,000	-1,471,000	青山学院大学講座新設
経常費用	13,526,000	11,947,900	1,578,100	
経常増減	-13,334,000	-10,284,900	-3,049,100	

(3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	24 予算	23 予算	前年差	備考
(1)普及活動支援 助成規定・海外クラブ支援	拡大	経常収益	0	0	0	前年度実績ベースで、予算規模を拡大
		経常費用	4,698,000	4,020,000	678,000	
		経常増減	-4,698,000	-4,020,000	-678,000	
(1)普及活動支援 地方活性化支援	縮小	経常収益	0	0	0	
		経常費用	2,553,000	3,135,000	-582,000	
		経常増減	-2,553,000	-3,135,000	582,000	
(2) 学校講座支援 教師派遣・授業拡大	休止・中止	経常収益	0	0	0	要請に応じて個別対応
		経常費用	0	149,500	-149,500	
		経常増減	0	-149,500	149,500	
(2) 学校講座支援 大学講座① 東京大学	前年度並み	経常収益	0	0	0	講師：ロバート・ゲラー
		経常費用	706,000	670,000	36,000	
		経常増減	-706,000	-670,000	-36,000	

(2) 学校講座支援 大学講座② 早稲田大学	拡大	経常収益	0	0	0	講師:清水映樹
		経常費用	1,470,000	1,200,000	270,000	
		経常増減	-1,470,000	-1,200,000	-270,000	
(2) 学校講座支援 大学講座 ③ 福岡大学	前年度並み	経常収益	0	1,395,000	-1,395,000	講師:勝部雅子
		経常費用	1,495,000	1,395,000	100,000	
		経常増減	-1,495,000	0	-1,495,000	
(2) 学校講座支援 大学講座 ④ 青山学院大学	新規	経常収益	0	0	0	講師:島村京子
		経常費用	1,210,000	0	1,210,000	
		経常増減	-1,210,000	0	-1,210,000	
(3) 学校・学生の 普及活動支援	拡大	経常収益	0	0	0	費用増は前年度管理費 計上分費用の移動による
		経常費用	632,000	518,400	113,600	
		経常増減	-632,000	-518,400	-113,600	
(4)九州地区 インターナショナルエア アカデミー講座	前年度並み	経常収益	180,000	180,000	0	講師:勝部雅子
		経常費用	330,000	330,000	0	
		経常増減	-150,000	-150,000	0	
(4)九州地区	前年度並み	経常収益	12,000	88,000	-76,000	
		経常費用	432,000	530,000	-98,000	
		経常増減	-420,000	-442,000	22,000	

4. 広報（公益目的事業 2.4）

(1) 計画概要

本年度は以下の事業を実施する。

① 広報宣伝活動

- ・ 広報宣伝活動、他団体・個人向け集客広報支援、ブリッジ図書寄贈プロジェクトなど
本年度は、新体制の下、中長期的観点から公益社団法人にふさわしい広報戦略を検討する。APBF 福岡大会後に認知度調査を実施し、前回実施（平成 22 年度）分と結果を比較して検討材料とする。また、APBF 福岡大会開催に合わせ、効果的な広告宣伝活動を行う。
- ・ 「2012APBF 福岡大会」新聞特集（新規・単発）

APBF 福岡大会開催に合わせ、マインドスポーツとしてのブリッジのPR、認知度向上、併催普及イベントへの集客につなげるため、地元紙に特集記事を掲載する。JCBL、福岡委員会、地元広告代理店で分担して集稿する。

② 出版物の刊行：入門レベル教材の作成（新規・単発）

- ・ 全国の普及協力者から入門レベル教材の改訂・刷新を求める声が多く寄せられていることから、講師・初心者が使いやすく、時代のニーズに合致する内容の教材を作成・出版する。

③ ウェブサイト（昨年度にサイトリニューアルが完了したことから、予算計上額は縮小）

- ・ 昨年度に導入した CMS システムの特徴を生かしたサイト戦略・活用方法を検討する。
- ・ 「普及通信」ウェブ版を定期的に更新する。非インターネットユーザー向けには印刷版を作成して郵送する。

④ 広報ツールの作成・配布

- ・ 初心者大会用賞品、普及・会員サービスに活用可能な廉価なグッズの製作・購入、広報パネル、オリジナル年賀状などの広報ツールの企画・開発を行う。
- ・ 公益社団法人化に伴い、総合パンフレットの改訂と事務局入居ビルの看板の改修を行う。

(2)収支総括	24 予算	23 予算	前年差	備考
経常収益	715,000	1,115,000	-400,000	費用の増加の主要因は、「2012APBF 福岡大会」新聞広告（単発事業）と教材作成事業等
経常費用	18,157,200	14,774,100	3,383,100	
経常増減	-17,442,200	-13,659,100	-3,783,100	

(3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	24 予算	23 予算	前年差	備考
(1)広報宣伝活動	前年度並み	経常収益	715,000	1,115,000	-400,000	APBF 福岡大会後に認知度調査を実施
		経常費用	10,705,000	11,101,000	-396,000	
		経常増減	-9,990,000	-9,986,000	-4,000	
(1)広報宣伝活動 2012APBF 新聞特集	新規単発	経常収益	0	0	0	
		経常費用	3,545,000	0	3,545,000	
		経常増減	-3,545,000	0	-3,545,000	
(2)出版 入門コース教材作成	新規単発	経常収益	0	0	0	
		経常費用	2,104,000	0	2,104,000	
		経常増減	-2,104,000	0	-2,104,000	
(3)ウェブサイト JCBL ウェブサイトの運営	縮小	経常収益	0	0	0	平成 23 年実施の CMS 導入により、固定費用が縮小
		経常費用	316,000	2,477,000	-2,161,000	
		経常増減	-316,000	-2,477,000	2,161,000	
(3)ウェブサイト 普及通信の編集発行	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	211,200	219,250	-8,050	
		経常増減	-211,200	-219,250	8,050	
(4) 広報ツールの作成・配付	拡大	経常収益	0	0	0	費用増は、公益社団法人移行に伴うパンフレット改訂、看板改修費用
		経常費用	1,276,000	976,850	299,150	
		経常増減	-1,276,000	-976,850	-299,150	

5. 普及事業管理費（公益目的事業 2.9）

(1) 計画概要

普及ネットプロジェクト

- 普及事業部とブリッジ・インストラクターを結ぶネットワークとして運営している「普及ネット」を活用して、新たな普及事業運営体制を検討する。
- ブリッジ・インストラクターの登録管理と登録証の発行を行う。

(2)収支総括	24 予算	23 予算	前年差	備考
経常収益	45,000	627,000	-582,000	事業実態に合わせて、福岡ブリッジプラザの普及事業運営管理部分を、法人部門から移した。
経常費用	32,631,333	35,370,063	-2,738,730	
経常増減	-32,586,333	-34,743,063	2,156,730	

(3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	24 予算	23 予算	前年差	備考
普及ネットプロジェクト	新規	経常収益	0	0	0	普及ネットを活用した新しい普及事業運営体制検討のための費用
		経常費用	112,000	0	112,000	
		経常増減	-112,000	0	-112,000	
管理費 普及事業部	縮小	経常収益	0	0	0	
		経常費用	30,012,233	32,003,580	-1,991,347	
		経常増減	-30,012,233	-32,003,580	1,991,347	
管理費 福岡 BP 普及	縮小	経常収益	45,000	627,000	-582,000	法人部門から移動
		経常費用	2,507,100	3,366,483	-859,383	
		経常増減	-2,462,100	-2,739,483	277,383	

IV. 国際交流事業（公益目的事業 3）

【平成 24 年度の計画概要】

(1) 計画概要

ブリッジは世界に多くの競技人口を有していることから、ブリッジを通じた国際交流を図ることは、国際親善・国際相互理解促進にとって有意義である。このため、(1)国際競技会の主催、(2)海外競技会への参加支援及び(3)国際的競技団体との交流の3事業を行う。

なお、公益社団法人化に伴う事業区分の変更により、前年度まで普及事業に分類されていたユースを対象とする国際競技会への参加支援事業は、本年度より国際事業に組み込むとともに、国内競技会である NEC ブリッジフェスティバルの開催は競技会事業に変更した。

本年度特記事項：

APBF コンgress福岡大会の開催を最大限活用し、連盟国内外のブリッジ関係団体、ブリッジプレイヤー、並びにマインドスポーツ関連団体との交流を深め、ブリッジの普及・発展への寄与に注力する。

(2)収支総括	24 予算	23 予算	前年差	備 考
経常収益	12,099,000	4,190,000	7,909,000	
経常費用	79,492,150	29,447,900	50,044,250	
経常増減	-67,393,150	-25,257,900	-42,135,250	

(3)事業別総括表

事業名	区分	24 予算	23 予算	前年差	備 考
3.1 国際競技会の主催	経常収益	11,379,000	3,200,000	8,179,000	費用増は APBF コンgress福岡大会開催
	経常費用	59,334,000	9,856,000	49,478,000	
	経常増減	-47,955,000	-6,656,000	-41,299,000	
3.2 国際競技会への参加費用助成	経常収益	720,000	990,000	-270,000	
	経常費用	14,554,600	15,712,400	-1,157,800	
	経常増減	-13,834,600	-14,722,400	887,800	
3.3 国際的競技団体との交流	経常収益	0	0	0	
	経常費用	1,256,750	1,424,000	-167,250	
	経常増減	-1,256,750	-1,424,000	167,250	
3.9 管理費	経常収益	0	0	0	
	経常費用	4,346,800	2,455,500	1,891,300	
	経常増減	-4,346,800	-2,455,500	-1,891,300	

【事業別計画】

1. 国際競技会の主催（公益目的事業 3.1）

(1) 計画概要

① 2012APBF コンgress福岡大会

第 7 回 APBF コンgress福岡大会をヒルトン福岡シーホークで開催し、国際交流に寄与する。

② Yer Bros 杯開催協力

Yer Bros 杯の日本開催（平成 25 年度予定）に協力し、チャイニーズ・タイペイとの国際交流を深めるとともに、相互協力・連携の強化を図る。NECBF と連続する形で開催することにより、近年減少傾向にある双方の参加者数を増やすなどのシナジー効果や費用対効果の向上を目指す。本年度は主催側と協力して具体的な計画を検討、準備作業を進める。

(2)収支総括	24 予算	23 予算	前年差	備考
経常収益	11,379,000	3,200,000	8,179,000	本戦関連費用のみ 関連事業を含む総額は下記(4)を参照
経常費用	59,334,000	9,856,000	49,478,000	
経常増減	-47,955,000	-6,656,000	-41,299,000	

(3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	24 予算	23 予算	前年差	備考
2012APBF コンgress福岡大会	拡大	経常収益	11,379,000	3,200,000	8,179,000	会期 8/25-9/2
		経常費用	59,334,000	9,856,000	49,478,000	
		経常増減	-47,955,000	-6,656,000	-41,299,000	

(4)参考

	24 予算	23 予算	前年差	備考
経常収益	12,129,000	3,200,000	8,929,000	国際交流事業(公益事業 3:大会開催部分)、競技会事業(公益事業 1:サイドゲーム開催部分)、及び普及事業(公益事業 2:併催普及イベント・新聞広告)を合計した、大会関連予算の総額
経常費用	65,503,200	9,856,000	55,647,200	
経常増減	-53,374,200	-6,656,000	-46,718,200	
内訳				
本戦+サイドゲーム	12,024,000	59,414,000	-47,390,000	
普及イベント	105,000	2,544,200	-2,439,200	
新聞広告	0	3,545,000	-3,545,000	
計	12,129,000	65,503,200	-53,374,200	

2. 国際競技会への代表派遣（公益目的事業 3.2）

(1) 計画概要

① 日本代表選抜

- 日本代表選抜試合を開催し、オープン、ウィメンズ各 1 チームを選抜する。参加者には、交通費と宿泊費を助成する。
- 代表チームの国内競技会参加費及び練習会の費用を助成する。

② 国際競技会派遣

- APBF 選手権
役員、代表委員、事務局の派遣
オープン、ウィメンズ、シニアチームの派遣
- 世界選手権
第 2 回ワールドマインドスポーツゲームズにオープン、ウィメンズ、シニアチームを派遣
- 日本代表のユニフォームを作成、代表選手に支給する。

③ 国際競技会派遣（ユース）

本年度より、ユース育成プロジェクトのうち海外競技会派遣・助成事業は本事業に区分する。
本年度は以下の競技会への参加を支援する。

- APBF 選手権（グレード I）：APBF コンgress福岡大会
- ワールドユースチーム選手権（中国太倉市 7/25~8/4）（グレード I）

(2)収支総括	24 予算	23 予算	前年差	備考
経常収益	720,000	990,000	-270,000	
経常費用	14,554,600	15,712,400	-1,157,800	
経常増減	-13,834,600	-14,722,400	887,800	

(3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	24 予算	23 予算	前年差	備考
(1)日本代表選抜	前年度並み	経常収益	720,000	990,000	-270,000	
		経常費用	830,000	939,500	-109,500	
		経常増減	-110,000	50,500	-160,500	
(2)国際競技会派遣 APBF 選手権	休止・中止	経常収益	0	0	0	コンgress大会かつ国内開催であることから、派遣なし
		経常費用	0	1,939,200	-1,939,200	
		経常増減	0	-1,939,200	1,939,200	
(2)国際競技会派遣 世界選手権	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	8,016,000	7,957,200	58,800	
		経常増減	-8,016,000	-7,957,200	-58,800	
(2)国際競技会派遣 その他	休止・中止	経常収益	0	0	0	
		経常費用	0	275,000	-275,000	
		経常増減	0	-275,000	275,000	
(2)国際競技会派遣 日本代表ユニフォーム	拡大	経常収益	0	0	0	
		経常費用	840,000	560,000	280,000	
		経常増減	-840,000	-560,000	-280,000	
(3)国際競技会派遣（ユース） APBF 選手権	縮小	経常収益	0	0	0	コンgress大会かつ国内開催であることから、支援基準変更
		経常費用	1,000,000	2,465,500	-1,465,500	
		経常増減	-1,000,000	-2,465,500	1,465,500	
(3)国際競技会派遣（ユース） 世界選手権	新規	経常収益	0	0	0	本年度より国際交流事業に計上
		経常費用	3,268,600	0	3,268,600	
		経常増減	-3,268,600	0	-3,268,600	
(3) 国際競技会派遣（ユース） 世界ユースコンgress / 大学選手権	休止・中止	経常収益	0	0	0	APBF 福岡大会、世界選手権開催の影響もあり、参加希望者がいないため、派遣見送り
		経常費用	0	1,276,000	-1,276,000	
		経常増減	0	-1,276,000	1,276,000	
(3) 国際競技会派遣（ユース） その他	拡大	経常収益	0	0	0	従来の支援内容が少額であったため、助成内容の上限を倍額に見直し
		経常費用	600,000	300,000	300,000	
		経常増減	-600,000	-300,000	-300,000	

3. 国際的競技団体との交流（公益目的事業 3.3）

【事業別計画】

(1) 計画概要

コントラクトブリッジを通じた国際交流を促進するため、本年度は以下の事業を実施する。

- ① 世界同時大会への参加
 - 平成 24 年 6 月 1～2 日に開催が予定される世界同時大会開催に参加協力
- ② APBF 同時大会への参加
 - 平成 24 年 11 月～平成 25 年 4 月まで開催が予定されている APBF 同時大会開催に参加協力
- ③ 海外競技会に参加する会員の支援と海外への情報提供と収集
 - ACBL との提携の継続・強化：ACBL 競技会の開催状況の提供
 - APBF 加盟国競技会の開催情報の提供
 - WBF 加盟国の競技会開催情報の提供
- ④ JCBL ウェブサイトの活用

連盟サイトを通して海外に情報を提供するとともに、ブリッジ関連サイトから情報を収集し、会員に提供する。
- ⑤ 国際ブリッジ組織協力・支援活動

第 14 回世界ユースチーム選手権で初めて「ガールズチーム」部門が設置されたことに伴い、APBF 及びチャイニーズ・タイペイブリッジ協会（CCTBA）への協力の一環として、同部門へのチャイニーズ・タイペイガールズチームの遠征費助成を行う（費用 30 万円を計上）。

(2)収支総括	24 予算	23 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	本年度単発事業として、チャイニーズ・タイペイガールズチームの世界ユースチーム選手権への派遣支援を実施
経常費用	1,256,750	1,424,000	-167,250	
経常増減	-1,256,750	-1,424,000	167,250	

(3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	24 予算	23 予算	前年差	備考
国際的競技団体との交流	前年度並み	経常収益	0	0	0	減少分は、平成 23 年に計上した APBF 大会への役員・職員派遣費用等
		経常費用	1,256,750	1,424,000	-167,250	
		経常増減	-1,256,750	-1,424,000	167,250	

4. 国際交流事業管理（公益目的事業 3.9）

(2)収支総括	24 予算	23 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	増加分は、事務所家賃及びコピー機器リース料等の配賦先事業及び比率を変更したことによるもの
経常費用	4,346,800	2,455,500	1,891,300	
経常増減	-4,346,800	-2,455,500	-1,891,300	

(3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	24 予算	23 予算	前年差	備考
管理費 国際交流事業部	拡大	経常収益	0	0	0	
		経常費用	4,346,800	2,455,500	1,891,300	
		経常増減	-4,346,800	-2,455,500	-1,891,300	

V. 収益事業等

【平成 24 年度の計画概要】

(1) 計画概要

公益社団法人化に伴う事業区分の改変により、前年度まで競技会事業部事業に分類されていたブリッジクラブ及びブリッジセンターならびに競技会の公認事業と、コントラクトブリッジに関する書籍、用具等の販売事業は、収益事業として独立させた。担当部署に変更はなく、公認事業は競技会事業部が、販売事業は事務局が担当する。

(2)収支総括	24 予算	23 予算	前年差	備考
経常収益	148,123,000	147,798,000	325,000	増加分は、事務所家賃及びコピー機器リース料等の配賦先事業及び比率を変更、及び収益等事業 1 の新規事業
経常費用	34,160,330	30,724,090	3,436,241	
経常増減	113,962,670	117,073,911	-3,111,241	

(3)事業別総括表

事業名	区分	24 予算	23 予算	前年差	備考
1 公認	経常収益	128,083,000	128,358,000	-275,000	公認事業は前年度並み、支援事業は拡大
	経常費用	15,465,830	12,309,690	3,156,141	
	経常増減	112,617,170	116,048,311	-3,431,141	
2 商品販売	経常収益	20,040,000	19,440,000	600,000	増加は費用配賦分
	経常費用	18,694,500	18,414,400	280,100	
	経常増減	1,345,500	1,025,600	319,900	

【事業別計画】

1. 公認（収益事業等 1）

(1) 計画概要

「公認クラブ規則」に定める条件を満たしブリッジの普及に努める団体を、公認クラブ及び公認ブリッジセンターとして承認し、その活動を支援するとともに、同規則その他当連盟の定める諸ルールに基づいてこれらの団体が開催する競技会を公認競技会として承認する。公認競技会における各競技者の成績は、公式な成績としてマスターポイントを発行し、記録・管理する。

センターサービス向上委員会が担当していた公認クラブ規則に定められたブリッジセンター及び常設ブリッジクラブの参加者の利便性、快適性の向上に係わる事業は、同委員会の解散に伴い、平成 23 年度下期より競技会事業部が引き継ぎ、本事業区分に分類した。

収益事業等 1.1 競技会の公認

① クラブ・センター主催競技会の公認

- ・ リジョナル、セクショナル、ローカル、CCG、IMP リーグ、ウィークリーゲームを公認する。
- ・ シニア会友及びユース会友に対する競技会参加料割引を実施する。

② マスターポイントの認定・管理

- ・ マスターポイントの集計・発行及びマスター位の認定を行う。

収益事業等 1.2 ブリッジクラブの公認と育成

① ブリッジクラブの公認と育成

- ・ ブリッジクラブ及びブリッジセンターを公認する。
- ・ 浜松リジョナルにあわせて地方クラブ会議を開催し、地方クラブの意見やニーズの把握に

努める。また、会議に出席する地方クラブ代表に対する参加費用の支援を行う。

- 「常設会場運営のためのサービス・ガイドライン」の運用、「ゲーム環境に係わるサービス向上のための意見書」対応、「緊急連絡システム」の運営、AED 設置支援を行う（解散するまではセンターサービス向上委員会の担当事業）。本年度は、バリアフリー工事助成制度を新設し、身体の不自由な方にもブリッジを楽しんでいただく機会を増やすことを目的にバリアフリー工事を希望する常設会場運営組織に対して工事費用の一部（上限 50 万円）を支援する。

② 競技会開催支援

- 地方リジョナル開催時のディレクター派遣費用の支援を行う。

(2)収支総括	24 予算	23 予算	前年差	備考
経常収益	128,083,000	128,358,000	-275,000	増加分は、事務所家賃及びコピー機器リース料等の配賦先事業及び比率を変更したことによるもの、及び(2)競技会開催支援事業内の新規分
経常費用	15,465,830	12,309,690	3,156,141	
経常増減	112,617,170	116,048,311	-3,431,141	

(3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	24 予算	23 予算	前年差	備考
(1)競技会の公認	拡大	経常収益	128,083,000	128,358,000	-275,000	実質はほぼ前年並み
		経常費用	13,248,830	10,718,590	2,530,241	
		経常増減	114,834,170	117,639,411	-2,805,241	
(2)ブリッジクラブの公認と育成	拡大	経常収益	0	0	0	バリアフリー工事助成制度を新設
		経常費用	2,217,000	1,591,100	625,900	
		経常増減	-2,217,000	-1,591,100	-625,900	

2. 商品販売（収益事業等 2）

(1)計画概要

コントラクトブリッジに関する書籍、競技用具等の販売を行う。

(2)収支総括	24 予算	23 予算	前年差	備考
経常収益	20,040,000	19,440,000	600,000	
経常費用	18,694,500	18,414,400	280,100	
経常増減	1,345,500	1,025,600	319,900	

(3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	24 予算	23 予算	前年差	備考
商品販売事業	前年度並み	経常収益	20,040,000	19,440,000	600,000	
		経常費用	18,694,500	18,414,400	280,100	
		経常増減	1,345,500	1,025,600	319,900	

VI. 管理部門

【平成 24 年度の計画概要】

本部門は、会員・会友向けの共益事業と法人を運営するための管理事業で構成される。公益社団法人化に伴う事業区分の変更により、競技会事業部及び普及事業部の事業に分類されていた会員向け刊行物の発行、JCBL ライブラリーの運営、会員・会友向けキャンペーン事業は、本部門の会員・会友向け事業としてまとめた。

【事業別計画】

(1) 計画概要

1. 会員・会友

① 会員・会友向け刊行物の発行

- ・ 会員・会友向けの以下の刊行物を編集・発行する。

『JCBL BULLETIN』（会報） 隔月刊年 6 回奇数月 1 日に発行、部数：7,300 部

『JCBL HANDBOOK』 毎年 5 月 1 日発行、部数：7,300 部

『九州支部会報』 年 2 回発行、部数：8,000 部

② JCBL ライブラリーの運営

- ・ 通常の新刊書に加えて、欠落していた図書の追加購入を行う。
- ・ 図書以外に事務局が保管している写真アルバム、ビデオ、その他の資料類、及びオートブリッジなどの器具類もライブラリーの保管管理対象物に加える。

③ キャンペーン

- ・ 会員・会友向けに以下のキャンペーンを実施する。

入会キャンペーン 入会者に QUO カードと粗品を進呈

ビギナーズ杯招待 初心者プレイヤーに対する競技会参加奨励策として実施。
従来の NEC ブリッジフェスティバルに加え、本年度は 2012APBF 福岡大会サイドゲームとして開催されるビギナーズ杯も招待対象に追加する。

2. 組織運営

- ・ 公益社団法人への移行に伴い、新定款や新組織規則をはじめとする諸規則の周知を図るとともに、これらの諸規則に基づく運営体制を速やかに構築して透明かつ適正な事業運営の徹底に努め、公益目的事業のさらなる推進を図る。
- ・ 本年度は、高橋陽子普及事業部長と福崎洋子事務局員の退職に伴い、清水映樹普及事業部長と貴戸祥郎事務局員を 4 月 1 日付けで新規採用する。組織運営体制及び事務局の人員体制の変更を勘案し、従来の業務執行管理体制を見直し、より効率的な体制を構築する。
- ・ 九州支部は固定費用を極力発生させない運営体制への移行を目指し、今後の在り方を検討する。福岡ブリッジプラザは独立の時期を APBF コンgress福岡大会後 1 年半程度に定めて、地元関係者とともに準備作業を進めていく。

(2)収支総括	24 予算	23 予算	前年差	備考
経常収益	24,478,500	27,015,250	-2,536,750	会員・会友関連事業を競技会及び普及事業から移動、逆に福岡ブリッジプラザ運営費を競技会・普及事業へ移動
経常費用	51,635,314	66,062,535	-14,427,221	
経常増減	-27,156,814	-39,047,285	11,890,471	

(3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	24 予算	23 予算	前年差	備考
1. 会員・会友 (1)刊行物の発行	縮小	経常収益	0	0	0	
		経常費用	3,573,000	5,956,696	-2,383,696	
		経常増減	-3,573,000	-5,956,696	2,383,696	
1. 会員・会友 (2)JCBL ライブラリー	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	350,000	350,000	0	
		経常増減	-350,000	-350,000	0	
1. 会員・会友 (3)キャンペーン	拡大	経常収益	0	260,000	-260,000	費用増は主に APBF 福岡大会初心者大会への招待分(本年度単発)
		経常費用	2,548,580	1,686,860	861,720	
		経常増減	-2,548,580	-1,426,860	-1,121,720	
2. 組織運営 (1)管理部	縮小	経常収益	23,698,500	24,965,250	-1,266,750	
		経常費用	40,084,434	51,296,979	-11,212,545	
		経常増減	-16,385,934	-26,331,729	9,945,795	
2. 組織運営 (2)九州支部支援	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	680,000	840,000	-160,000	
		経常増減	-680,000	-840,000	160,000	
2. 組織運営 (2)九州支部運営	縮小	経常収益	780,000	1,790,000	-1,010,000	費用減は主に人件費 (APBF 福岡大会のための一時的な増員分)
		経常費用	4,399,300	5,932,000	-1,532,700	
		経常増減	-3,619,300	-4,142,000	522,700	

VII. 参考：九州支部及び福岡ブリッジプラザの活動

参考までに、以下に九州支部及び福岡ブリッジプラザの事業をまとめた。

【九州支部事業まとめ】

(1) 計画概要

基本方針

本年度は、APBF コングレス福岡大会の開催年であり、普及活動の山場となる。前年度に引き続き、「APBF2012」福岡委員会アピール（3 項目）の方針を踏まえ、第 7 回 APBF コングレス福岡大会の成功に向けて、同委員会と協力しながら事業活動を展開する。同アピールの内容は JCBL の目的に完全に合致するものであり、JCBL 本部と連携しつつ、九州地区のブリッジ普及活動を推進していく。

活動方針

- ① 競技会事業（公益目的事業 1）
 - ・ 地元九州チームの実力向上を期して、魅力ある競技会の開催に努める。
 - ・ APBF コングレス大会開催という特別な年であるため、例年 7 月開催の「山笠ブリッジ祭り」は、同大会のサイドゲームとして 9 月に開催する。3 月の九州リジョナル・西日本新聞社杯とあわせ、九州地区最大のブリッジイベントとして開催する。
- ② 普及事業（公益目的事業 2）
 - ・ 支部設立の趣旨を念頭に置き、「年齢・性別を超えて一緒に遊べる楽しいブリッジ」の普及のため、広報活動を多彩に展開して、社会教育、地域、各種団体、企業等への働きかけを行う。また体験教室やブリッジ講座を通じてブリッジ愛好者の増大に努め、コントラクトブリッジ競技人口の拡大を目指す。具体的には、支部会報の発行、体験教室の開催、民間カルチャーセンターや専門学校におけるブリッジ講座の開催支援等を実行する。
 - ・ APBF コングレス福岡大会には、地元九州からできるだけ多くのエントリーを目指している。地元の会員会友だけでなく、福岡大学やカルチャーセンター等、九州支部が支援しているブリッジ講座の受講生・卒業生にもサイドゲームへの参加を呼びかける。
- ③ 福岡ブリッジプラザとの連携
 - ・ 福岡ブリッジプラザとの連携は、引き続き強化していく。支部とプラザ幹事で構成する運営会議を充実させながら、同プラザの健全かつ安定的な経営をサポートする。

収支総括	24 予算	23 予算	前年差
経常収益	1,068,000	3,713,000	-2,645,000
経常費用	7,712,700	9,674,000	-1,961,300
経常増減	-6,644,700	-5,961,000	-683,700

個別事業一覧表

事業名	方針	区分	24 予算	23 予算	前年差
公 2.1 九州支部主催体験イベント	縮小	経常収益	96,000	260,000	-164,000
		経常費用	376,400	647,000	-270,600
		経常増減	-280,400	-387,000	106,600
公 2.3 福岡大学講座支援	前年度並み	経常収益	0	1,395,000	-1,395,000
		経常費用	1,495,000	1,395,000	100,000
		経常増減	-1,495,000	0	-1,495,000
公 2.3 体験教室・講習会支援	前年度並み	経常収益	12,000	88,000	-76,000
		経常費用	432,000	530,000	-98,000
		経常増減	-420,000	-442,000	22,000
公 2.3 インターナショナルエア カデミー講座支援	前年度並み	経常収益	180,000	180,000	0
		経常費用	330,000	330,000	0
		経常増減	-150,000	-150,000	0
法 2 九州支部運営	縮小	経常収益	780,000	1,790,000	-1,010,000
		経常費用	4,399,300	5,932,000	-1,532,700
		経常増減	-3,619,300	-4,142,000	522,700
法 2 九州支部支援	前年度並み	経常収益	0	0	0
		経常費用	680,000	840,000	-160,000
		経常増減	-680,000	-840,000	160,000

【福岡ブリッジプラザ事業まとめ】

(1) 計画概要

基本方針

本年度は、福岡ブリッジプラザ設立から 6 年目を迎えると同時に APBF コンgress福岡大会が開催される特別の節目の年である。また、独立に向けてこれまでのプラザ運営の成果を検証し、改善策を実行していく年でもある。収支構造は完全な独立採算軌道に乗ったとはまだ言えないものの設立以来順調に改善してきていることから、これまでの方向性に大きな誤りはなかったものと考えられるが、今後はそれをさらに強力で押し進めていく必要がある。同時に、福岡で開催される APBF コンgress大会を起爆剤として何ができるかも検証する必要がある。

目標の一つとして、地元福岡におけるブリッジ愛好者基盤を拡大すること、具体的には、現在約 120 人いる福岡在住の会友・会員数を 2 倍程度まで増やすことが挙げられる。そのために、今年度も、新人及び入門講習会受講者の開拓と定着に一層努力するとともに、魅力ある競技会を企画して競技会参加者の増加を図っていく。

APBF コンgress大会については、この機会をプラザ独立に向けての活動に最大限に活かしていくため、九州支部と連携を取りながら具体策を検討・実施する。

活動方針

① 競技会事業（公益目的事業 1）

- IMP リーグは、夏と冬の 2 回、火曜、金曜、土・日に開催する。新人についても、火曜と水曜のリーグを実現したい。セクショナルの開催回数を増やすことは他の競技との関係上難しいため、新人も参加しやすいイーブンチャンスチーム戦の割合を増やし、参加者数の増加を図る。
- 午前中のゲーム開催など、ウィークリーゲームの拡大を図る。

② 普及事業（公益目的事業 2）

- APBF コンgress福岡大会期間中に開催される普及イベントや大会広報活動とプラザの普及活動とを効果的に連動させ、大会を契機にブリッジに関心を持った地元の人々がブリッジを継続して楽しむことができる場を提供する。
- 今年度は APBF コンgress福岡大会開催前及び期間中、並びに 3 月末に無料体験教室を開催して、新人発掘に取り組む。より多くの参加者を募るため PR 活動を強化し、従来から効果が確認されている知人による紹介をさらに徹底していく。
- 入門講習会を終了した新人プレイヤーの定着を図るため、引き続きレベルアップ講習会及び講習会に近いサロンを実施するとともに、受講希望者のレベルやニーズに応じて講習内容の見直しを行い、充実化を図っていく。

収支総括	24 予算	23 予算	前年差
経常収益	9,603,200	10,444,500	-841,300
経常費用	9,321,400	11,567,266	-2,245,866
経常増減	281,800	-1,122,766	1,404,566

個別事業一覧表

事業名	方針	区分	24 予算	23 予算	前年差
公 1.1 福岡 BP 主催競技会	前年度並み	経常収益	6,014,000	7,090,500	-1,076,500
		経常費用	850,200	1,053,500	-203,300
		経常増減	5,163,800	6,037,000	-873,200
公 1.1 APBF サイドゲーム (平日開催分)	新規	経常収益	645,000	0	645,000
		経常費用	80,000	0	80,000
		経常増減	565,000	0	565,000
公 1.9 福岡 BP 競技会事業 管理費	縮小	経常収益	621,000	627,000	-6,000
		経常費用	3,740,100	4,632,483	-892,383
		経常増減	-3,119,100	-4,005,483	886,383
公 2.1 福岡 BP 主催体験 イベント	前年度並み	経常収益	300,000	300,000	0
		経常費用	96,000	96,000	0
		経常増減	204,000	204,000	0
公 2.2 福岡 BP 主催講習 会	前年度並み	経常収益	1,843,200	1,800,000	43,200
		経常費用	2,048,000	2,418,800	-370,800
		経常増減	-204,800	-618,800	414,000
公 2.9 福岡 BP 普及事業 管理費	縮小	経常収益	45,000	627,000	-582,000
		経常費用	2,507,100	3,366,483	-859,383
		経常増減	-2,462,100	-2,739,483	277,383

事業計画書
(付属資料)

平成 24 年 (2012 年) 度

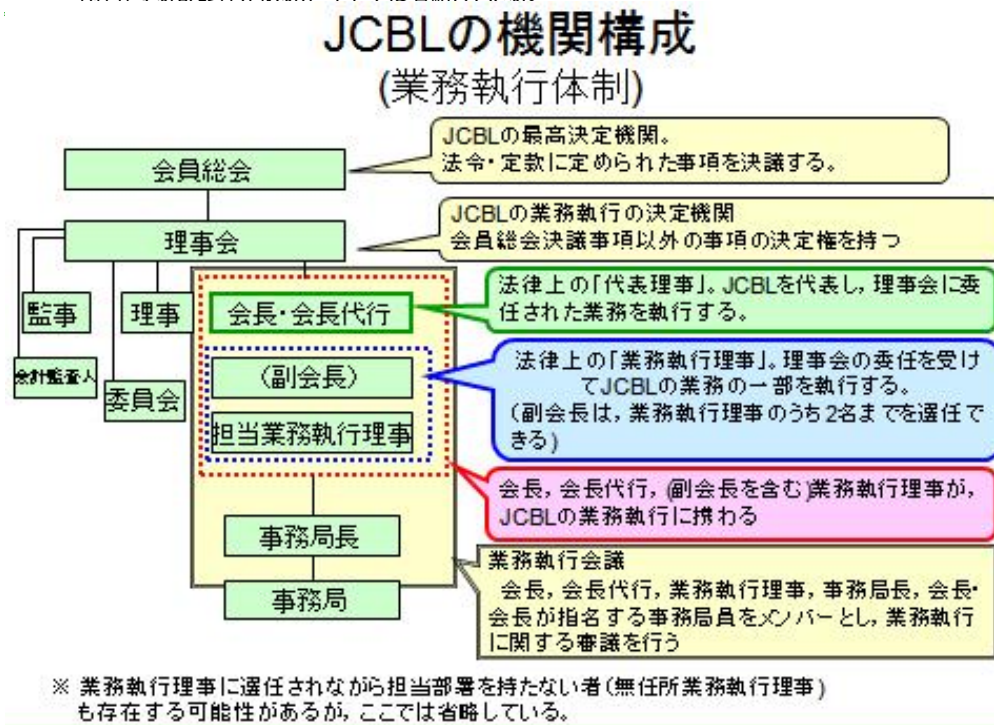
公益社団法人日本コントラクトブリッジ連盟

目 次

I. 組織・事業区分の再編	1
1. 新定款に基づく機関構成と事業区分の概要	1
2. 新事業区分による事業一覧表	2
3. 従来の事業区分と新事業区分の比較	3
4. 定款に定める事業内容と事業区分・主な担当部署の対応（注1）	5
II. 実施計画等詳細	6
1. 競技会事業（公益目的事業1）	6
(1) 本部主催競技会開催予定	6
(2) 福岡ブリッジプラザ主催競技会開催予定	7
2. 普及事業（公益目的事業2）	8
(1) 体験イベントの開催（公益目的事業2.1）	8
① 文化・教育関連イベント年間出展計画	8
② 一般向け体験イベント開催計画	8
③ ユース向け体験イベント	9
④ ジュニア向け体験イベント	9
⑤ 九州地区	10
(2) 講習会等の開催（公益目的事業2.2）	10
① ユース育成プロジェクト	10
② 福岡ブリッジプラザ講習会開催計画	11
(3) 他の団体等による体験教室・講習会等の実施支援（公益目的事業2.3）	11
① 体験教室・講習会等の支援計画	11
② 地方活性化のための支援事業について	11
③ 大学ブリッジ講座支援	11
④ 学校・学生支援	12
⑤ 九州地区における支援活動（九州支部）	12
3. 国際交流事業（公益目的事業3）	14
2012APBF コンgress福岡大会概要	14

I. 組織・事業区分の再編

1. 新定款に基づく機関構成と事業区分の概要



JCBLの事業区分

- 公益目的事業、収益事業等、法人会計に分かれる。
- 公益社団法人には、以下の条件がある(公益認定法5条)
 - 収支相償: 公益目的事業は、収益がプラスになってはならない。
 - 公益目的比率: 公益目的事業の支出が、全体の50%以上にならないといけない

具体的な業務区分

公益目的事業
 公益目的事業1: 競技会事業
 公益目的事業2: 普及事業
 公益目的事業3: 国際交流事業

収益事業等
 収益事業等1: クラブ・センター競技会の公認
 収益事業等2: 書籍、用具等の販売

法人会計(法人全体の管理、会員の共益事業など)

事務局組織と主たる業務内容

事務局			
(管理業務)	競技会事業部	普及事業部	国際交流事業部
(法人, 収2)	(公1, 収1)	(公2)	(公3)

※ 九州支部は、公1~3、収1、2の九州における業務を担当する

2. 新事業区分による事業一覧表

<p>公益目的事業</p> <p>公1 競技会事業</p> <p>公1.1 競技会の主催</p> <p>公1.1.1_主催競技会</p> <p>公1.1.2_NECブリッジフェスティバル</p> <p>公1.1.3_九州地区</p> <p>公1.2 競技会運営環境の整備</p> <p>公1.2.1_競技会運営システム</p> <p>公1.2.2_競技委員会</p> <p>公1.2.3_ルール委員会</p> <p>公1.3 ディレクターの養成</p> <p>公1.3.1_ディレクター講習会</p> <p>公1.3.2_ナショナルディレクター養成プログラム</p> <p>公1.9 その他（競技会事業管理）</p>
<p>公2 普及事業</p> <p>公2.1 体験イベントの開催</p> <p>公2.1.1_文化・教育関連イベント出展</p> <p>公2.1.2_一般向け体験イベント</p> <p>公2.1.3_ユース向け体験イベント</p> <p>公2.1.4_ジュニア向け体験イベント</p> <p>公2.1.5_九州地区</p> <p>公2.2 講習会等の開催</p> <p>公2.2.1_ミニブリッジ指導法講習会</p> <p>公2.2.2_ユース向け講習会</p> <p>公2.2.3_ジュニア向け講習会</p> <p>公2.2.4_九州地区</p> <p>公2.3 体験教室・講習会等の実施支援</p> <p>公2.3.1_普及活動支援</p> <p>公2.3.2_学校講座支援</p> <p>公2.3.3_学校・学生の普及活動支援</p> <p>公2.3.4_九州地区</p>

<p>公2 普及事業（続き）</p> <p>公2.4 広報</p> <p>公2.4.1_広報宣伝活動</p> <p>公2.4.2_出版</p> <p>公2.4.3_ウェブサイト</p> <p>公2.4.4_広報ツールの作成・配付</p> <p>公2.9 その他（普及事業管理）</p> <p>公2.9_普及ネットプロジェクト</p>
<p>公3 国際交流事業</p> <p>公3.1 国際競技会の主催</p> <p>公3.2 国際競技会への代表派遣</p> <p>公3.2.1_日本代表選抜</p> <p>公3.2.2_国際競技会派遣</p> <p>公3.2.3_国際競技会派遣（ユース）</p> <p>公3.3 国際的競技団体との交流</p>
<p>収益事業等</p> <p>収1 公認事業</p> <p>収1.1 競技会の公認</p> <p>収1.2 ブリッジクラブの公認と育成</p> <p>収2 商品販売事業</p>
<p>管理部門（法人）</p> <p>法1 会員・会友</p> <p>法1.1 刊行物の発行</p> <p>法1.2 JCBL ライブラリー</p> <p>法1.3 キャンペーン</p> <p>法2 組織運営</p>

3. 従来の事業区分と新事業区分の比較

従来の区分による事業内容	備考	新区分
1. 競技会事業部 (1) 競技会の主催 (2) 競技会開催の支援 (3) 競技会の公認 (4) ブリッジクラブの公認 (5) マスターポイントの認定 (6) 競技会水準の向上 (7) 競技会運営環境の整備と維持 (8) JCBL ライブラリーの運営 (9) 公認クラブ支援 (10) 競技委員会 (11) ルール委員会	マスターポイントの集計・発行、マスター位の認定等 ディレクター講習会の開催、各種競技会の調査・企画、ナショナルディレクターの養成等 競技会運営システムの開発と保守、競技会会場の確保と運営設備の維持向上、センターサービス向上委員会担当事業等 ブリッジ関連資料・書籍の収集・購入と保存、定期刊行・雑誌の製本、図書管理システムの運営等 委員会活動支援 委員会活動支援	公 1.1 収 1.2 収 1.1 収 1.1 収 1.1 公 1.3 公 1.2 法 1.2 収 1.2 公 1.2 公 1.2
競技会事業部の担当事業は、主に公益目的事業 1 と収益事業等 1 に分割。		
2. 普及事業部 普及部会 (1) 全国及び地域イベントへの出展 (2) 地域への普及活動 (3) 体験教室・入門講習会の開催と支援 (4) 会員向けサービス 教育部会 (1) 大学講座支援 (2) 学校ブリッジ講師養成 (3) ブリッジ授業拡大活動 ユース部会 (1) 青少年対象イベントへの参加 (2) ユース層・学校に対する支援 (3) ユース代表チームの選抜強化・国際大会派遣 ジュニア部会 (1) ジュニアクラブイベントの企画・運営 (2) ジュニア向け体験イベントの開催 (3) ジュニア向け広報活動	国民文化祭、まなびピア、ゲームマーケット等への出展 地方クラブ活性化策、普及担当者研修支援等 連盟主催体験教室・初心者向け競技会等の開催、講師（普及協力員・登録指導員）の紹介・派遣、講座の PR、講師料等の助成等 入会キャンペーン等の会員・会友向けサービスの企画立案・実施 教育関連機関／行政機関／青少年を対象とする組織・団体等の主催イベントへの参加 ユース育成プロジェクト ジュニアくらぶ活動 サロン、橋之介道場、ジュニアチーム選手権、ジュニアキャンプ、集中講座等 ジュニアくらぶ通信の発行、イベント情報のメール配信、チラシの制作等	公 2.1 公 2.1／公 2.3 公 2.1／公 2.2／公 2.3 法 1.3 公 2.3 公 2.3 公 2.3 公 2.1 公 2.3 公 2.2／公 3.2 公 2.1 公 2.1／公 2.2 公 2.1

(続き)

従来の区分による事業内容	備 考	新区分
広報部会 (1) 広報宣伝活動 (2) 定期刊行物(会報・ハンドブック)の編集発行 (3) 広報ツールの企画作成 (4) ウェブサイト運営 (5) 会員拡大活動の企画運営		公 2.4 公 1.1/収 1.1/法 1.1 公 2.4 公 2.4 法 1.3
<p>部会制度に基づく事業運営体制を発展的に解消、それぞれの担当事業は目的別に再分類。キャンペーン企画等の会員向け事業は法人管理部門に分類するが、企画立案・実施は引き続き普及事業部が担当。</p>		
3. 国際交流事業 (1) 国際大会への代表派遣業務 (2) ブリッジに関わる関係国際組織との渉外・協力 (3) 各国ブリッジ組織との渉外・協力 (4) ブリッジに関わる情報収集及び各国組織との情報交換 (5) 会員・会友が参加できる海外のブリッジ競技会の情報収集と提供 (6) 国際大会の企画運営	NEC ブリッジフェスティバル、APBF 選手権等	公 3.2 公 3.3 公 3.3 公 3.3 公 3.3 公 1.1/公 3.1
<p>NEC ブリッジフェスティバルは国内競技会であるため公 1.1 に分類するが、運営体制に変更はなく、国際交流事業部と競技会事業部が協力して開催する。</p>		

4. 定款に定める事業内容と事業区分・主な担当部署の対応（注1）

改定前定款（第5条）	主な担当部署	新定款（第5条）	事業区分	主な担当部署
1 コントラクトブリッジに関する広報及び講習会等の開催と援助	普及事業部	1 コントラクトブリッジの普及を目的とする広報及び啓発活動	公益目的事業 2	普及事業部
2 コントラクトブリッジクラブの育成と公認	競技会事業部	2 コントラクトブリッジに関する講座、セミナー、講習会及び体験活動等の実施	公益目的事業 2	普及事業部
3 コントラクトブリッジ競技会の開催と公認	競技会事業部	3 コントラクトブリッジに関する各種助成及び支援	公益目的事業 1～3 収益事業等 1	普及事業部 競技会事業部 国際交流事業部
4 マスターポイント制度の確立と実施	競技会事業部	4 コントラクトブリッジクラブの公認と育成	収益事業等 1	競技会事業部
5 コントラクトブリッジを通しての国際交流	国際交流事業部	5 コントラクトブリッジ競技会の開催	公益目的事業 1.1	競技会事業部
6 コントラクトブリッジに関する出版物の発行及び資料の収集と管理	普及事業部 競技会事業部	6 コントラクトブリッジを通じた国際交流	公益目的事業 3	国際交流事業部
7 その他、この法人の目的を達成するために必要な事業	事務局 管理部（注2）	7 コントラクトブリッジに関する出版物（電子的なものを含む）の発行及び資料の収集と管理	公益目的事業 2.4 管理事業	普及事業部 事務局
		8 コントラクトブリッジ競技会の公認	収益事業等 1	競技会事業部
		9 マスターポイント制度の確立と運営	公益目的事業 1.1 収益事業等 1	競技会事業部
		10 コントラクトブリッジに関する書籍出版物（電子的なものを含む）及び用具などの販売	収益事業等 2	事務局
		11 その他、この法人の目的を達成するために必要な事業	管理事業	事務局

（注1）改定後の定款では、改定前定款の第5条事業内容のうち、以下の事業をより詳細な分類に再編した。
 1 広報及び講習会等の開催と援助 ⇒ 改定後 1～3
 3 競技会の開催と公認 ⇒ 改定後 5・8
 6 出版物の発行及び資料の収集と管理 ⇒ 改定後 7・10
 （注2）事業再編に伴い、管理部という名称を廃止。事務局全体で担当する管理事業と位置づける。

II. 実施計画等詳細

1. 競技会事業（公益目的事業 1）

(1) 本部主催競技会開催予定

競技会名	日程	開催日数	場所	予定卓数	従事者 予定人数
1) ナショナル競技会（全国大会）					
玉川高島屋 S・C 杯	4月21、22日	2日	玉川高島屋/ 四谷BC	90卓	3人
全日本地域対抗選手権（関東予選）	5月12、13、 19、20日	4日	四谷BC/ 五反田BS	110卓	4人
藤山杯（予選・決勝）	7月7、8日	2日	四谷BC/ 高田馬場BC	78卓	3人
外務大臣杯（予選・決勝）	7月28、29日	2日	四谷BC	68卓	2人
高松宮記念杯	9月15～17、 22、23日	5日	四谷BC/ 五反田BS	110卓	5人
全日本女子ペア選手権（予選・決勝）	10月13、14日	2日	四谷BC/ 渋谷BC	140卓	3人
高松宮妃記念杯（予選・決勝）	11月3、4日	2日	四谷BC	96卓	2人
NISSAN ブルーリボン杯	12月22日	1日	四谷BC/ 五反田BS/名古屋BC/大阪BC	120卓	3人
エンゼル・レッドリボン杯	12月22日	1日	四谷BC/大阪BC	42卓	1人
朝日新聞社杯	1月12～14日	3日	四谷BC/五反田BS/高田馬場BC/大塚BC	160卓	7人
2) 日本リーグ 1部 2部	} 前期：4・6月 後期：12・1月	4日	四谷BC	16卓	1人
		4日		24卓	n/a
3) リジョナル競技会					
柳谷杯	4月7、8日	2日	四谷BC/ 五反田BS/ 高田馬場BC	140卓	7人
サントリー杯	4月29日	1日	四谷BC/ 横浜BC/名古屋BC/大阪BC	120卓	3人
井上杯（予選・決勝）	5月26、27日	2日	四谷BC	64卓	2人
井上歌子杯	5月27日	1日	四谷BC	26卓	1人
モンタルト杯	7月14、15日	2日	四谷BC	36卓	2人
福岡市長杯	9月1、2日	2日	ヒルトン福岡		
テレビ西日本杯	9月2日	1日	ヒルトン福岡		
丸の内杯（関東予選・決勝）	9月8、9日	2日	四谷BC	10卓	n/a
夏季シニアペア	9月8日	1日	四谷BC	20卓	1人
夏季シニアチーム	9月9日	1日	四谷BC	16卓	1人
萩原杯	9月29、30日	2日	四谷BC/ 高田馬場BC	100卓	4人
服部杯	12月5日	1日	在首都圏BC 数か所	170卓	8人
新年リジョナル	1月6日	1日	四谷BC	24卓	2人
春季リジョナル	3月16、17日	2日	四谷BC	32卓	2人
渡辺杯	3月23、24日	2日	四谷BC	56卓	3人
4) 社会人リーグ 社会人 IMP リーグ	11月～3月		各会場	16卓	n/a

(2)福岡ブリッジプラザ主催競技会開催予定

① ウィークリーゲーム

開催日時： 月・火・水・金午後
参加予定人数： 各平均4テーブル、延べ700人ずつ

② ローカル

土日ローカル	月2回	平均8卓	延べ760人
火曜ローカル	月1回	平均5卓	延べ240人
金曜ローカル	月1回	平均6卓	延べ300人

③ IMP リーグ

新人リーグ	(5+4)チーム×2期
金曜リーグ	6チーム×2期
土日リーグ	5チーム×2期

④ セクショナル

イーブンチャンス	6回
ハンディキャップペア	2回
新人セクショナル	1回
その他	11回

⑤ ナショナル(リジョナル)予選

全日本地域対抗選手権	2×2卓
外務大臣杯	5卓
高松宮妃記念杯	4卓
柳谷杯	5卓
玉川高島屋S・C杯	3卓
全日本女子ペア選手権	5卓

⑥ APBF コンgress福岡大会サイドゲーム

ストラティファイドペア	8月27日	12卓
ストラティファイドペア	8月28日	12卓
イーブンチャンスチーム	8月29日	12卓
新人ストラティファイドペア	9月1日	10卓
新人チーム	9月2日	10卓

⑦ 九州リジョナル

リジョナル1&2	20卓
西日本新聞社杯	20卓
新人ローカル1&2	10卓
新人セクショナル	10卓

2. 普及事業（公益目的事業 2）

(1) 体験イベントの開催（公益目的事業 2.1）

① 文化・教育関連イベント年間出展計画

事業名	主催団体	実施場所	実施時期	日数	受益対象者の範囲	参加予定人数(延べ)	従事者予定人数
霞が関子ども見学デー	文部科学省	文部科学省	8月中旬	2日	小中学生及びその保護者など	200人	3人
第7回関西ジュニア・ペア碁大会	日本ペア碁協会	京セラドーム（予定）	未定（夏休み中）	1日	小中学生及びその保護者など	150人	8人
夏休みジュニア&プロふれあい囲碁まつり	日本棋院中部総本部	日本棋院中部総本部	未定（夏休み中）	1日	小学生～高校生及びその保護者など	80人	3人
ゲームマーケット（東京）	ゲームマーケット事務局	東京都立産業貿易センター	5月13日	1日	一般	150人	4人
ゲームマーケット（大阪）	ゲームマーケット事務局	未定	未定（3月頃）	1日	一般	150人	4人

② 一般向け体験イベント開催計画

・ APBF コンgress福岡大会普及イベント

APBF コンgress福岡大会という注目度の高い機会を最大限に活用して、一般の人々にブリッジに対する興味・関心を高めてもらうための各種普及イベントを開催する。日本で開催する APBF 大会で普及イベントを併催するのは、今回が初めての試みである。NECブリッジフェスティバル体験イベントで培ったノウハウを生かして実施し、開催後は結果・成果を検証して今後の普及活動に役立てていく。

実施時期： 平成 24 年 8 月 25 日（土）～30 日（木）

実施場所： ヒルトン福岡シーホーク

計画概要：

1. マインドスポーツ体験教室	8月25日 午後	8月26日 終日
2. ミニブリッジ大会河部杯	8月25日 午後	
3. 初心者大会ビギナーズ杯	8月26日 午前・午後	
4. 普及コーナー	8月27日～8月30日	

受益対象者の範囲・参加予定人数： 一般市民 600 人（延べ）

従事者予定人数： 30 人

・ NECブリッジフェスティバル体験イベント

最大のブリッジ普及イベントと位置付け、ブリッジ未経験者にブリッジの楽しさを経験してもらい「体験教室」と、基礎を習得したばかりの初心者競技ブリッジのおもしろさを体験してもらい「初心者ゲーム大会」を 2 本柱で開催する。

実施時期： 平成 25 年 2 月 9 日（土）、10 日（日）

実施場所： パシフィコ横浜

計画概要： 1. “Let’s Play マインドスポーツ！”

マインドスポーツ 5 種目の体験教室（ミニブリッジ／囲碁／チェス／ドラフツ／シャンチー）体験教室、シールラリー、お楽しみ福引など

2. 初心者向け競技会

デビュタント杯、ビギナーズ杯（△5MP/△20MP）

3 部門 x 2 日間（午後）開催

3. パネル展示、PR ビデオ放映

4. 古書市チャリティ

受益対象者の範囲・参加予定人数： 一般市民 380 人（延べ）

“Let’s Play マインドスポーツ！”150 人（延べ）、初心者向け競技会 230 人（延べ）

従事者予定人数： 30 人

• ブリッジを愉しむ会

日頃ブリッジをする機会の少ないプレイヤーを中心に、多くの人がブリッジを通じて気軽に交流できる場を提供する。年 4 回開催。

実施時期： 4 月、7 月、10 月、1 月の年 4 回開催

実施場所： 四谷ブリッジセンター

受益対象者の範囲・参加予定人数： 一般プレイヤー、各回 28 人

従事者予定人数： 4 人

③ ユース向け体験イベント

• ユースキャンプ

全国の学生を対象とする JCBL 主催のブリッジキャンプを開催し、学生同士の交流と技術向上を支援する。大学ブリッジ講座の受講生・修了生が次のステップを目指す場となることも期待している。JCBL 及び各大学のブリッジクラブのウェブサイトなどを通じて告知・PR 活動を行う。

実施時期： 平成 24 年 9 月

実施場所： 相模原

受益対象者の範囲・参加予定人数： 全国の大学生 32 人

従事者予定人数： 2 人

④ ジュニア向け体験イベント

• ジュニアくらぶ体験イベント

ジュニア層及びその保護者に対するブリッジの認知度・イメージの向上とジュニアプレイヤーの数的・地域的基盤の拡大を図り、将来のブリッジ界を担うジュニアプレイヤーを育成するため、ジュニア層及びその保護者がミニブリッジを体験、練習できる機会を継続的に提供する。新規参加者が減少傾向にあるため、本年度は体験教室を強化する。

年間開催計画

事業名	実施場所別予定回数		実施時期	参加 予定人数	従事者 予定人数
	四谷 BC	横浜 BC			
体験／入門／練習会					
体験教室	14	12	通年	各回 3 人	各回 1 人
ミニブリッジ短期コース	2	0	通年	各回 8 人	各回 1 人
橋之介プレ道場／ミニ道場	10	8	通年	各回 5 人	各回 1 人
大会					
橋之介ミニ道場スペシャル大会	2	2	通年	各回 8 人	各回 2 人
第 5 回横浜ミニベイブリッジフェスティバル杯	n/a	1	5 月 3 日	16 人	2 人(注 1)
第 4 回ジュニア・ミニブリッジチーム選手権	1	n/a	7 月末	16 人	2 人
第 3 回マクブリッジ杯	1	n/a	7 月末	16 人	(注 2)

(注 1) 横浜ミニベイブリッジフェスティバル杯は横浜ブリッジセンター主催、JCBL 協賛。従事者 1 名を JCBL が派遣。

(注 2) ジュニア・ミニブリッジチーム選手権と併催。従事者（ディレクター）は 2 事業共通で 2 人。

⑤ 九州地区

• 九州支部主催体験イベント

ミニブリッジ体験教室 九州リジョナル開催時、ほか地元公共団体、一般企業等で開催
ミニブリッジサロン 毎月2回開催

• 福岡ブリッジプラザ

ミニブリッジ体験教室 9月・3月 参加予定数 各20人
サロン 月～金曜日開催 年間延べ600人

(2) 講習会等の開催（公益目的事業 2.2）

① ユース育成プロジェクト

※ 「ユース育成プロジェクト」は、公益目的事業 2.2 の強化プログラムと公益目的事業 3.2 の国際大会への派遣と二つの公益目的事業分野にまたがっているが、ここでは双方の事業をまとめて実施計画を掲載する。本プロジェクト関連業務は引き続き普及事業部の担当が行う。

意欲ある若年層プレイヤーのために、強化プログラムによる技術向上支援と日本代表としての海外遠征機会の提供・支援を行う。

A) 強化プログラム（公益目的事業 2.2）

平成24年度の代表選手及び平成25年度代表候補登録者を対象に、練習会、講習会、国内競技会参加（反省会形式の講習会を含む）、代表選考試合等で構成される強化プログラムを実施する。参加者には、プロジェクト指定の6競技会（柳谷杯、横浜INV、高松宮記念杯、朝日新聞社杯、NEC杯、木村六郎杯）と特別講習会への参加費を助成する。遠方からの参加者には、交通費・宿泊費の助成も行うとともに、各講習会には講師を派遣する。

B) 国際大会への派遣（公益目的事業 3.2）

本年度は以下の国際大会への代表選手派遣または参加支援を実施する。

• APBF コンgress福岡大会（参加支援）

会期： 8月25日～9月2日
開催地： 福岡ヒルトンシーホーク
内容： 参加希望チームを対象に参加料及び交通費・宿泊費を助成
U26：2万円、U21：3万円

※ 本年度はCongress大会であること、及び開催国が日本であることから、例年のAPBF選手権派遣事業とは基準が異なる。

• ワールドユースチーム選手権（代表チーム派遣）

会期： 7月25日～8月4日
開催地： 太倉市（中国）
内容： 26歳未満（U26）のジュニアチーム6名、21歳未満（U21）のヤングスターチーム6名、計12名の選手、NPC1名の派遣に伴う航空運賃、宿泊費、参加料、海外保険料、ユニフォーム代などを助成。

• その他（参加支援）

海外の国際経験を積む目的で若手プレイヤーが海外競技会へ参加することを希望する場合には、これを奨励し、支援活動を行う。具体的には、海外からの招待やユースプレイヤーからの自発的な参加要請があった場合に、個別に検討して、航空運賃・宿泊費・参加料等の支援を行う。支援額は1人当たり10万円を上限とする。

② 福岡ブリッジプラザ講習会開催計画

福岡ブリッジプラザで開催する講習会の予定は以下のとおり。

種類	内容	受講予定者数
入門講習会	前期 4～9 月、後期 10～3 月	各 10 人
外部入門講習会	依頼ベースで開催、地域の公民館等を想定	
レベルアップ講習会	入門レベルアップ（6 ヶ月経過）	年間延べ 200 人
	初級レベルアップ（12 ヶ月経過）	年間延べ 200 人
	中級レベルアップ（18 ヶ月経過）	年間延べ 200 人
	中級（上級を目指す）	年間延べ 500 人

(3) 他の団体等による体験教室・講習会等の実施支援（公益目的事業 2.3）

① 体験教室・講習会等の支援計画

- ・ 体験教室
講師・アシスタント料助成、教材・記念品・PR ツールの支給・貸与等
1 件当たり 15,000 円×60 件、交通費実費
- ・ 入門講習会
講師料、会場費等
1 件当たり 50,000 円×20 件、交通費実費
- ・ カルチャースクール講座
1 件当たり 50,000 円×10 件、アシスタント料助成 3,000 円×12 回×25 件、交通費
- ・ クルーズ教室
カルチャースクールのアシスタント助成に準じて支援 3,000 円×30 日×5 件
- ・ 海外クラブ支援
海外各地のクラブ・同好会と情報を共有しながら、メンバーの定着、増加のために地元が必要とする支援を実施する。また、ブリッジクラブや仲間の紹介などの情報提供を中心に、赴任者・帰国者に対する支援活動も引き続き行う。

② 地方活性化のための支援事業について

中期計画立案体制の変更に伴い、第 2 次 5 ヶ年計画のもとで進めてきた地方活性化プロジェクトは計画全体を見直し、普及事業部全体としての中期計画の枠組みの中で再検討する。計画の検討と立案に当たっては、昨年度に公認クラブを対象に実施したアンケート調査の結果を吟味し、地方における普及活動の実態やニーズという視点を考慮する。

従来から行っている以下の事業は、引き続き本年度も実施する。

- ・ 地方クラブ支援活動
全国のブリッジクラブによる普及活動を奨励し、イベント企画・体験教室スタッフ派遣・賞品提供など必要な支援を行う。
- ・ 初心者大会参加助成
全国の初級者を対象に、地方クラブが主催する競技会に、全国 10 地区のペアを 1 組ずつ 1 泊 2 日で招待する。
- ・ 地方クラブの普及担当者研修
地方クラブの普及担当者を対象とする NEC ブリッジフェスティバル普及イベントでの研修を実施する（4 名、交通費を助成）。

③ 大学ブリッジ講座支援

- ・ 東京大学ブリッジ講座（7 年目）

講座概要： 前期・後期 各 14 回、2 単位
実施場所： 東京大学駒場キャンパス
講師： ロバート・ゲラー
支援内容： 準講師格アシスタント 2 名の派遣、四谷ブリッジセンターでの最終授業（1 日）開催、教材コピー、発送など事務業務、受講学生への JCBL 会報配付支援

• 早稲田大学ブリッジ講座（4 年目）

講座概要： 前期・後期 各 15 回
※ 同大学の学生だけでなく他大学の学生、高校生も受講可
実施場所： 早稲田大学
講師： 清水映樹
支援内容： アシスタント派遣（受講者増加のため、2 名から 4 名に増員）、交通費、会場費、その他授業経費
開講目的として設定された「青少年の論理的思考力を育てることを目標にしたブリッジ指導法の研究」への協力

• 福岡大学ブリッジ講座（2 年目）

講座概要： 前期・後期 各 15 回
※ 1 期 15 回中 2 回程度は首都圏等からゲスト講師を招き、ブリッジの魅力について語ってもらう。
実施場所： 福岡大学
講師： 勝部雅子
支援内容： 講師及びアシスタント 3 名の派遣、交通費、その他授業経費

• 青山学院大学ブリッジ講座（新規）

講座概要： 前期・後期 各 15 回
実施場所： 青山学院大学
講師： 島村京子
支援内容： 講師及びアシスタント 2 名の派遣、交通費、その他授業経費

④ 学校・学生支援

- 学校クラブ活動支援 ※ 前年度までの事業名は「新入部員獲得活動」
要請に基づき、大学・高校・中学ブリッジ部の立ち上げや新入部員獲得活動に対する支援やクラブ活動に必要な教材・用具等の提供を行い、若年層愛好者の底辺拡大の一助とする。
- 学生リーグ支援 ※ 前年度までの事業名は「学生合宿支援」
学生リーグ主催の学生選手権にブリッジを始めたばかりの学生の参加を促すため、ブリッジを始めて間もない学生の宿泊費・交通費の一部を助成する。
交通費助成は青春切符相当分、宿泊費助成は 3,000 円を上限とする（参加 1 年目のみ）。

⑤ 九州地区における支援活動（九州支部）

- インターナショナルエアアカデミー（航空専門学校）のブリッジ講座支援
講座概要： 前期・後期 各 15 回
実施場所： インターナショナルエアアカデミー（福岡市）
講師： 勝部雅子
支援内容： 講師及びアシスタント 2 名の派遣、交通費、その他授業経費
- 地元社会におけるブリッジ普及活動支援
学校におけるブリッジ活動の支援：教材・ブリッジ用具等の提供、講師の派遣など、要請に応じて対応する。

近隣県における普及活動支援：長崎県・熊本県・佐賀県内の普及活動協力者や団体に対して、要請に応じて支援を行う。

- カルチャースクール講座支援
西日本新聞 TNC 文化サークル：講師料助成
熊日生涯学習プラザ講座：アシスタント 2 名の派遣、講師及びアシスタントの交通費助成

3. 国際交流事業（公益目的事業3）

2012APBF コングレス福岡大会概要

- 大会名： 和文名 第7回アジアパシフィック・ブリッジコンGRESS大会
英文名 THE 7th ASIA PACIFIC BRIDGE FEDERATION CONGRESS
FUKUOKA2012
*略称 2012APBF コングレス福岡大会
(APBF CONGRESS 2012 FUKUOKA)
- 会期： 8月25日(土)～9月2日(日) 9日間
- 会場： 福岡県福岡市 ヒルトン福岡シーホーク ※ 福岡市中央区地行浜 2-2-3
- 主催： アジアパシフィック・ブリッジ連合
(ASIA PACIFIC BRIDGE FEDERATION -略称 APBF)
- 主管： 公益社団法人日本コントラクトブリッジ連盟
(JAPAN CONTRACT BRIDGE LEAGUE -略称 JCBL)
- 協力・支援： APBF2012 福岡委員会
- 後援： 文化庁(申請中)、福岡県、福岡県教育委員会、福岡市、福岡市教育委員会
財団法人 福岡観光コンベンションビューロー、株式会社 西日本新聞社
- 構成： APBF 選手権本戦
①チーム戦：予選～決勝(7日間)
 - ・ オープン部門(参加資格に制限なし)
 - ・ ウィメンズ部門(女性のみ)
 - ・ シニア部門(60歳以上)
 - ・ ユース部門(26歳未満)②オープンペア戦：予選～決勝(2日間)
サイドゲーム
 - ・ 福岡市長杯(チーム戦)、テレビ西日本杯(ペア戦)、ほか、一般プレイヤー向け競技会を開催③その他イベント
 - ・ 参加者歓迎イベント(地元文化紹介コーナー、はっぴーサマーナイト等)
 - ・ 普及イベント(マインドスポーツ体験教室、ミニブリッジ大会河部杯、体験教室、ブリッジサロンなど)

2012APBF コングレス福岡大会日程表

日付	APBF コングレス本戦		サイドゲーム		普及イベント	
	時間	イベント	時間	イベント	時間	イベント
8月25日 (土)	12:00			開会式		
	14:30	APBF オープンペア予選 (1st) (夕食休憩)	14:30	ミニブリッジ大会・河部杯 (1S)	14:30 ～18:00	マインドスポーツ 体験教室
	19:00	APBF オープンペア予選 (2nd)				
8月26日 (日)	10:00	APBF オープンペア決勝 (2S)	10:30	ビギナーズ杯 (△50/△20STF)	11:00 ～18:00	マインドスポーツ 体験教室
	～17:30	APBF コンソレーションペア (2S)	14:30	ビギナーズ杯 (△50/△20STF) (午前・午後、各1セッション)		
8月27日 (月)	10:00	APBF コングレス予選 RR	STF ペアセクショナル[オープン/△1000] (2S)		11:00	体験教室
	～19:50	(4R 予定)	(2セッションゲームですが、片方だけの参加もできません。 2ndセッションは14時30分開始予定)		～17:00 18:30 ～ 20:00	ウィークリーゲーム/練習会
8月28日 (火)	10:00	APBF コングレス予選 RR	STF ペアセクショナル[オープン/△300] (2S)		11:00	体験教室
	～19:50	(4R 予定)	(2セッションゲームですが、片方だけの参加もできません。 2ndセッションは14時30分開始予定)		～17:00	ウィークリーゲーム/練習会
8月29日 (水)	10:00	APBF コングレス予選 RR	オープンチャンスチームセクショナル (2S)		11:00	体験教室
	～19:50	(4R 予定)			～20:00	ウィークリーゲーム/練習会
	19:00		はッピーサマーナイト			
8月30日 (木)	10:00	APBF コングレス予選 RR	チームリジョナル予選[オープン] (2S)		11:00	体験教室
	～19:50	(4R 予定)	[△1000] (2S) (予選敗退の場合は翌日のペア戦に参加できます。)		～17:00	ウィークリーゲーム/練習会
8月31日 (金)	10:00	APBF コングレス予選 RR	チームリジョナル決勝[オープン] (2S)			
	～19:50	(4R 予定)	[△1000] (2S) STF ペアリジョナル[オープン/△1000] (2S)			
9月1日 (土)	10:00	APBF コングレス準決勝	福岡市長杯予選[オープンチーム] (2S)			
	～19:50		(予選敗退の場合は翌日のペア戦に参加できます。) 新人 STF ペア[△100/△20] (2S)			
9月2日 (日)	10:00	APBF コングレス決勝	福岡市長杯決勝[オープンチーム] (2S)			
	～17:50		テレビ西日本杯[オープン IMP ペア] (2S) 新人チーム戦[△100] (2S)			
	18:30		閉会式/表彰式			

※ 3月末時点での更新情報。時間・ラウンド数などは暫定。